

いよいよ味覚の秋の到来である。梨にブドウに栗にキノコと、数え上げればきりが無いほど豊富な季節。魚介類だって例外ではない、脂がほどよくなるって一入おいしくなってくる時季である。

食べることに異常に執着心を持っている私にとっては、この時期は特別に待ち遠しい季節でもある。特に食欲は香りによって触発されることが多い。視覚的な美しさや、実際の味、そして舌触りといったところも、おいしさの大切な要素なのかもしれないが、それ以上に秋の味覚は、匂いに惹かれることが頻繁である。

特にこの時期には松茸の匂いが気になって仕方がない。松茸を頭に思い描くだけでも、唾液を分泌してしまうほどである。

近年、年に一度この匂いを楽しむのが、私の贅沢となっている。友人と松茸を求めて越県し、手に入れてくるほどだ。ちょっとしたミニ旅行も兼ねて、親交を深める意味もあることなどから、わざわざ出かけるのである。国産なら言うことはないのだが、とても高くして手に入らないことから外国産ということにはなる。

店の人とは顔なじみになり、事前に連絡しておけば、そのように準備をしておいてくれるという有り難い関係にもなった。産地も様々で見た目の良くないものもあるが、5,000円を上限にお買い上げとなる。何ともたわいもない人生の楽しみだが、秋の香りには心まで豊かにしてくれるような錯覚に陥らされてしまう奇妙さがある。土瓶蒸しに、松茸ご飯と…匂いと共に秋は深まる。

## 日々の幸せ K.H

私には子供のいない叔父九十二才と、八十八才の叔母がいます。

今のところ二人とも元気で、買い物も、医者へも、銀行へでも、いつも二人で一緒に出掛けているようです。洗濯や炊事も、お互いに助け合ってやっていますよ。

しかし、いつかどちらかが一人になった時のことを思うと大変だろうなと思われるのですが、二人とも施設には入らないと言っているのです。そんな叔父が、親戚一同が集まったある法要の席でこんなことを話しました。

朝、目が覚めると、いつものおいしいそうな味噌汁の匂いがして来る。ああ、今日も妻は元気で居てくれたんだな、と思う。と、そしてそんな日暮しが今ここにあることを思うと、感謝の思いでいっぱいになることも。そう言いつつも幸せそうなお父さん、安堵している表情を見せつけられました。

しかし、私には子供のいない寂しさや、将来への不安な思いは口には出さないうまでもなく心の中では感じているのだらうな、と思われまふ。

私がこの二人にやっとなげられることは限られてはいるけれども、せめて時々は姉を誘って訪問し、話し相手にでもなってみようかと、今、思っています。

寄添いながら懸命に生きている叔父叔母の姿から、幸せは平凡な日常にこそ微笑んでいることを教えられた気がいたしました。



来月からお取越しをお勤めさせていただきます。

それは報恩感謝の心を表わす大切な在家における一大行事です。年に一度は家族そろってお参りをし、阿弥陀様の願いを私に届けようと、ご苦労なされた親鸞聖人はじめ、多くの先達のご恩に感謝いたしましたように。

### 同朋会

第一土曜 4日(七時より)

- 1. 若院法話 2. お文に学ぶ

お気軽にご参加ください。



### 任職の感想

叔父さんの味噌汁の匂いによって妻の存在の有り難さを思い、幸せを感じるという、実感のこもったこのお話は、年季を重ねた老夫婦ならではの、しみじみとした情感が伝わってきます。

ともに支え合いながら一日一日の今をしっかりと確かめるように生きる。生きていくことの心配は尽きることはないけれども、与えられた今を感謝の思いで生きるしかない人生として、明確な答えがこの老夫婦から窺えるような気がいたします。



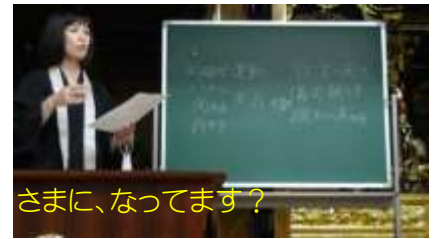
孫たちも一緒に  
なつて楽しんでい  
ます。

## 如来大悲の恩徳は～♪



9月12日(土)19時～20時30分

学習会にて 若坊守の法話  
と演奏風景



さまに、なってます？

毎月恒例の学習会において、「恩徳讃」の演奏と、本山前期講習の報告を兼ねて、30分ほどの法話をしてくれました。すべてが初めての経験ばかりの中でのことですが、篤い思いをもって学んできてくれたことを、話してくれました。

本山での研修生活を通して、真宗門徒としてのあるべき姿がぼんやりと思いつかなくて、御同朋、御同行の思いを根底に据えて、まずは自らの生き方に具現化できるような歩みにしていって、願っています。

住職としましては、とてもたのしい同朋が、また一人できたと、喜んでいるところです。

### 九月二十三日(水)

秋の永代経をお勤めさせていただきました。

秋の穏やかな一日は、亡き人を身近に感じながら、諸仏の願いに心澄ませさせていただく、良いご縁となったのではないのでしょうか。

午後には若院が四十分程の法話をしてくれました。かなり緊張した様子でしたが、ご参詣の皆様のおかげで、眼差しに勇気づけられ



仏さまから届けられている御心を、いい感じで伝えようとしてくれていました。

また今の自分の思いを率直に語ってくれた話には、堂内から笑い声も聞かれ、終始和やかな聴聞の場となりました。

かつてはお参りと言うと圧倒的に年配の女性が多かったのですが、近年は若い女性や、男性が増え、とても喜ばしいことだと思っております。ありがとうございました。 合掌

### 中島みどりさんに聞く

若院が法話で「ご紹介いたしました 日蓮華のようにーあなたに会えてよかったー」より 一部抜粋してご紹介

私が私であつてよかったといえる私はお金持ちになり、健康だからよかったといえるようになったとか、そんなことではないのです。：中略：お金がなくとも病気をしてもいろんなことをするなかで、いつでも、どんなときでも、私が私でよかったといえるあなたになれ」と呼びかけてくださる方があった。その呼び声を聞くということが、人間のいちばん大事な願いではないでしょうか。その方が親鸞聖人だと私は思います。だから お母さんは、お母さんでよかったと思っています。す、お母さん親鸞様が大好きです。



光受寺境内に咲く

悪性のリンパ腫によって四十才という若さで、御主人と二人のお子さんを残して亡くなられた中島みどりさんの言葉です。

自分の人生がどんな状況であったとしても、それをそのまま引き受けて生きられるのは、私の人生を認めてくれる自分以外の存在が必要となることだと思っております。その方がまさに**真実の阿弥陀様を明らかにされた親鸞さま**だと言っておられるのだと思われま

新聞原稿募集中ー日頃の思い、言葉にしてみませんか？

内容は問いませんので、ぜひ協力をお願いします。